

CNAC 海辺の環境教育プログラム助成事業視察報告

9月10日(土)・12日(日)に1泊2日で茨城県ひたちなか市阿字ヶ浦の民宿が運営するキャンプ場を中心に開催された「海キャンプ」の視察に行ってきました。

この「海キャンプ」は、CNAC 海辺の環境教育プログラム助成事業として、会員である Office COMBO が NPO 法人那須高原自然学校と共同で開催したものです。

Office COMBO は、茨城県の海岸を舞台に活動しており、今回は海なし県の団体、那須高原自然学校を海に招き、海辺の環境教育プログラムを実践したもので、CNAC からは、環境部会員三好代表理事、檀野、事務局 中島の3人が参加しました。

CNAC では今年度から助成事業プログラムの視察を行うことを計画しており、今回が初めての試みとなりました。

キャンプ参加人数は、Office COMBO は指導者1人、那須高原自然学校が小学1年生から小学6生までの16人と指導者6人+カメラマン兼指導者1人でした。

「海キャンプ」のプログラムは予定では、1日目は釣り教室、2日目が海水浴と磯観察でしたが、当日の天気は晴天で、2日目の天気予報が曇りのち雨だったことから、釣り教室と海水浴のプログラムを入れ替えての実施となりました。

【キャンプ1日目】

予定の午前11時に遅れてキャンプ場へ着いた子どもたちは、まずはグループごとに寝所となるテント設営。その後持参の弁当で昼食を済ませて、海水浴へ。出発前に「安全小冊子」を用いての「砂浜のキケンくん」安全講座が開催されました。

海水浴場は、車で10分ほどの平磯海水浴場です。平磯海水浴場は周りを堤防で囲まれており、波も非常に穏やかなところで、小さな子どもたちや家族連れにはちょうど良い海水浴場でした。

海水浴場について一行はライフジャケットを着けての行動で、海水浴を楽しむ者、砂遊びを楽しむ者など思い思いに過ごしました。2時間ほど海水浴を楽しんだ後、キャンプ場へ戻りシャワーを浴びてから、夕食である BBQ を火お越しから調理、焼き方、食べ方と楽しみました。

夕食後は夜の散歩です。子どもたちの先頭としんがりは明かりとなるランタンを持った指導者で、行先はキャンプ場から歩いて5分ほどの阿字ヶ浦海水浴場です。阿字ヶ浦海水浴場からは常陸那珂港の明かりや工場の明かりが綺麗に見えて、さながら今都会で人気の「工場夜景ツアー」の雰囲気もありました。

夜の散歩から戻り就寝前にはしっかり「ふり返り」をしました。



《気が付いたこと》

※海水浴はライフジャケット着用。行動はグループごとではなく、各自思い思い。但し近くに指導者がいる。

※子どもがトイレに行くときは、必ず指導者が付き添う。

【キャンプ2日目】

キャンプ2日目の天気は朝5時ごろから雨が降り出すも6時半ごろに止み、その後曇りの1日となりました。

子どもたちは朝起きてテントをたたみ、帰りの準備。朝食は民宿で済ませての釣り教室へと出発。

出発の前には「安全小冊子、港のキケンクン」で安全教室を行いました。

釣場は、那珂湊漁港の一角。ここではもちろんライフジャケットを着ての釣り。

誰が最初に釣り上げるか興味津々のところ、女兒がみごと「クサフグ」を釣り上げました。子どもたちには「クサフグ」も立派な釣果です。

その後「クサフグ」、「メバル」、「シマハゼ」など小魚が釣れて終了。釣り上げた「メバル」、「シマハゼ」と三好代表がどこからかいただいて来た「サバ」2匹をその場でさばき天ぷらにしてもらい、ごく小さな切れつつを子どもたちが、昼食のおにぎりと共に味わいました。

昼食後は場所を大洗海岸へと移動しての漂流物観察。駐車場に着いた子どもたちは早速「安全小冊子」による「岩場のキケンクン」で安全教室後海岸へ降りました。

大洗海岸は波もやや高いため、磯観察は中止となり、子どもたちは足を水につけることも禁止され、残念ながら石ころ海岸で漂着物観察やキラキラ貝殻の宝探し、砂遊びを楽しみました。

CNAC一同も今年度作り上げる「海辺の環境教育プログラムレシピ集」の表紙作成を目指してのビーチコーミングで作品を作りました。

以上で2日間のプログラムは **CNAC** の旗とともに記念撮影をして終了しました。

子どもたちはお土産をもとめて別の場所へ移動のため、**CNAC**一同は子どもたちから「ありがとうございました」との挨拶を受け大洗海岸から帰路につきました。

《気が付いたこと》

※野外活動は天候に左右されやすいので、プログラムの組み換え、雨等荒天時のプログラムの準備等が必要。

※子どもたちの人数、学年等をもとに指導者の人数、配置、役割分担が必要。また、できれば役割に左右されず、臨機応変に動けるフリーの指導者も必要。

